

平成27年度第1回 結核臨床研修会の実施報告について

平成27年11月8日(日)、羽咋市の『コスモアイル羽咋』にて当院主催の結核臨床研修会を開きました。この研修会は結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的としており、平成13年度から年1回石川県の各地で開催しています。今年度石川県から結核診療の「中核病院」に指定され、本研修会も年2回にグレードアップしました。

そして今回は、能登中部地区の医療従事者と介護福祉関係者の方々を対象とし、能登中部保健福祉センター、七尾市医師会、羽咋郡市医師会等から共催や後援をいただきました。当日はあいにくの雨模様にも関わらず、54名の参加がありました。



演題は6題あり、第1演題は能登中部保険福祉センター所長南陸男先生から「能登中部保健所管内の結核患者の発生状況について」と題して講演がありました。この中では、平成26年の結核登録状況では能登中部の罹患率は人口10万対17.9人と過去3年で比較すると高かったこと、新登録患者の中では高齢者と若年者の外国籍者が多いこと、外国籍者を多く雇用する企業での健康教室を積極的に実施している等の説明がありました。

第2演題は当院の堂下内科医師から「結核診断のポイントについて」と題して結核感染と発病、結核菌関連検査から実際の症例に基づく診断のコツの説明がありました。

第3演題は土島外科医長から「結核症例の実際について」という題で5症例の提示があり、質疑応答では開業医先生からの熱心で専門的な質問が多くありました。

第4演題「良質な喀痰の採取法とその評価について」では多和田臨床検査技師長が上手な痰の採取方法と喀痰の品質評価の重要性について解説しました。

第5演題「結核発症時の施設内対応と当院における看護について」では石倉結核看護院内認定看護師より結核の感染経路、感染防止対策、抗結核薬、DOTSカンファレンスと退院後の対応、精神的援助にいたる流れの具体的な説明がありました。



今年度から追加した第6演題では中川感染管理認定看護師より「施設内での結核患者発生時の接触者調査について」と題して、フローチャートを用いながら、結核患者の感染性の有無とその強さを判断し接触者健診の対象者を選択していくことを分かりやすく説明しました。最後に参加者全員でN95マスクの正しい装着法とフィットテストを実演しました。

研修会終了後のアンケートはどれも好評で、一部ご紹介しますと、「多職種からの講義が聞けて勉強になった」、「症例提示でCT等の画像が見れて理解が深まった」などです。

来年2月には南加賀地区で結核臨床研修会を開催予定です、今後も中核病院として様々な情報を発信していきたいと思っております。